

理想と信念、そして愛に生きたその人生

# 荻野吟子の生涯

## Ginko Ogino's whole life

女性医師第1号の荻野吟子。女医となるまで数々の困難を乗り越え、そして女医になってからもその信念を貫くため、苦労を重ねた人生でした。明治30年にせたな町で開業し、東京に戻って大正2年に生涯を閉じてから、今年でちょうど100年。荻野吟子が切り開いた女性医師への道。現在、日本には約55,000人も女性医師が活躍し、総医師数に占める割合は約20%にもなっている。

### 女医になる決意

Decision

1851(嘉永4)年3月3日、吟子は武蔵国播磨郡儀瀬村(現・埼玉県熊谷市儀瀬)の旧家、父・荻野綾三郎、母・嘉与(かよ)の5女「ぎん」として生まれました。

戸籍上の名前は「ぎん」ですが、師範学校入学頃から本人が「吟子」という名前を使うようになったそうです。

荻野家は代々庄屋をつとめてきた苗字帯刀も許される家

柄、そんな恵まれた環境の中で、吟子は勉学に励み成長していきました。

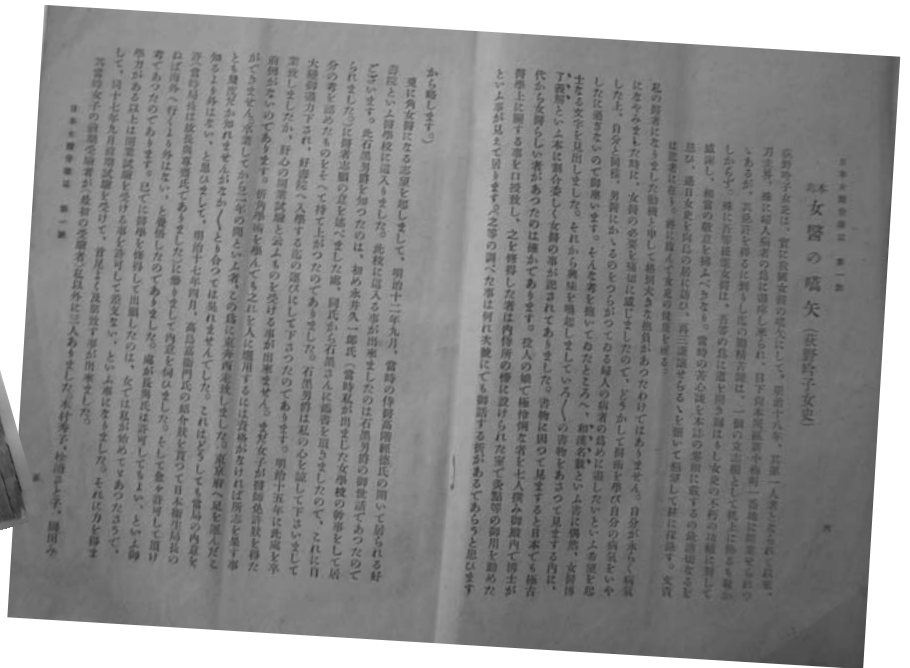
1867(慶応3)年、17歳になった吟子は、武蔵国北埼玉郡上川上村(現在の熊谷市上川上)の名主の長男、「稲村貫一郎」(のちの足利銀行初代頭取)と結婚し、周囲の人が「玉のこし」と羨む幸せな毎日を送ります。

しかし、結婚後まもなく、不幸にも夫から性病をうつされます。現在は抗生物質がありますが、当時、この病気は一生治らないとさえ言われていた辛い病気で、吟子は肉体的、精神的に悩まされます。

そして、療養のため実家に帰るとそのまま協議離婚となり、幸せな生活が音をたてて崩れていくのでした。

その後、上京し大学病院で治療を受けますが、男性医師になされる治療は耐え難いほどの羞恥であり、吟子は女医の必要性を痛感します。

そして、この体験が吟子に、医師になることを決意させます。



大正2年に創刊された「日本女医会雑誌」第1号。吟子の女医志願談が掲載されたが、くしくもこの年に吟子は永眠する。

### 立ちはだかる壁 Wall

1873 (明治6)年、22歳になった吟子は、周囲の反対を強い意志で押し切り、女医を目指すため上京します。

しかし、明治の封建的では女性が医師になることは至難の業であり、女性を認めない習慣の壁が幾度も立ちはだかることとなります。

上京した吟子は、国学者であり皇漢医(中国古来の医学)の「井上頼圀(よりにく)のもとで、ひたすら学問に励みます。

そして、1875 (明治8)年、東京女子師範学校(現・お茶の水女子大学)に第一期生として入学し、師範学校を主席で卒業します。

こうして、いくら学力をつけても医学校の門は固く閉ざされたまま、それでも吟子はあきらめずに努力を続け、当時、女人禁制であった私立医学校「好寿院」への入学が認められたのです。

吟子28歳、ようやく女医への第一歩を踏み出しました。

### 万策尽きる吟子 Every means

女性初の医学生であるがゆえ、男子学生からのいじめや苦学に耐えながらも、吟子は学び続けました。

そして、1882 (明治15)年に優秀な成績で卒業、あとは医師開業試験に合格したら念願の医師になることができます。

しかし、再び封建的な制度などの壁が吟子の前に立ちはだかります。開業医受験願いを何度提出しても、女性は前例が無いという理由で却下されてしまうのです。

万策が尽きた吟子、しかし医者になる夢をまだ捨てる訳には行きません。

### 日本初の女医誕生 Female doctor birth

吟子を救ったのは井上頼圀などといった支援者でした。支援者らは、日本でも古代から女医らしい者がいたという史実をつきとめ、その調査資料と衛生局局长への紹介状を吟子に託しました。

吟子は「石黒忠憲(好寿院経営者・のちの陸軍軍医総監)とともに衛生局局长と面会しますが、女は困ると一蹴されてしまいます。それでも懸命な懇願を続けます。





# 荻野吟子の生涯

Ginko Ogino's whole life



写真①／インマヌエルの丘（今金町） 写真②／姉（野口友子）とその子どもたち（左上が吟子） 写真③／瀬棚日曜学校メンバー（中段一番右が吟子）

そんな吟子と支援者らの熱意がついに実るときがきます。1884（明治17）年、医術開業試験規則が改正され、女性の受験が可能となったのです。

同年9月、長年待ちわびた医術開業試験。この試験に合格すれば医者になれる。これで医者を目指す吟子を妨げるものではありません。前期試験には吟子を含む

4名の女性が受験しましたが吟子のみ合格。その後、難関とされる後期試験にも見事合格。女医になることを決意してから15年の月日が流れ、ついに日本人女性初となる国家資格を持った女医が誕生しました。

そして、1885（明治18）年5月、本郷湯島三組町（現・東京都文京区）に念願の『産婦人科 荻野医院』を開業したのです。

吟子34歳、開業医受験願ひ提出から2年もの時が過ぎていました。

## 転機 Turning point

開業当初は女医に対する偏見もありましたが、やがて荻野医院は下駄をぬぐ所もないくらいに繁盛しました。

その後、手狭になった荻野医院は下谷西黒門町に移転。吟子は開業医のかたわらキリスト教婦人会をはじめ、明治女学院の生理衛生担当など各界で幅広く活動をししました。

そんな吟子に転機が訪れます。1890（明治23）年11月25日、吟子39歳のとき、13歳年下の同志社の学生で、現在の大河ドラマの主役「新島八重」の夫、「新島襄」から洗礼を受けた敬虔なキリスト教徒「志方之善」（しかたゆきよし）と周囲の反対を押し切り再婚をします。

またしても結婚が吟子の人生を大きく変えてしまうのです。志方はキリスト教徒の理想郷を夢見て北海道に渡り、吟子は7年続けた荻野医院を休業して明治女学校の舎監となります。

それから2年後の1892（明治25）年、志方を追って北海道へ旅立つのでした。

## 新天地へ New world

北海道に渡った吟子は、志方が暮らすインマヌエル（今金町神丘）に移り住み、理想郷を夢見た10人で開墾するも、開拓地の返還などの問題から、開拓を断念します。

志方は鉱山開設のため吟子とともに国縫に転居。半年後に布教活動を続けるため利別（今金町）へ、吟子は生計を立てるため当時、練場として栄えていた瀬棚会津町（現・せたな町瀬棚区本町）に移り住み「荻野医院」を開業するのでした。

1897（明治30）年、吟子46歳、この「せたな町」で再び開業医の生活を始めます。

瀬棚での吟子は、荻野医院とともに、地元的女性たちと「淑徳婦人会」を結成し、女性の地位向上のための活動や、「瀬棚日曜学校」の創設など、地域に根ざした活動を積極的に行いました。

翌年には志方も瀬棚に移り住み、1903（明治36）年までの6年間は、夫、そして地域の皆さんと、ようやく穏やかで平穏な暮らしをすることができました。

# 荻野吟子の生涯

Ginko Ogino's whole life



写真⑦



写真⑥



写真④



写真⑤

写真④／埼玉県にある吟子の墓 写真⑤／瀬棚総合支所前にある吟子像（埼玉県の石材店より寄贈） 写真⑥／吟子小公園（旧国鉄瀬棚駅跡地）に移設された頭彰碑。後ろには吟子の愛した「人その友の為に己の命を損なう 此より大なる愛はなし」という聖書の言葉が書かれている 写真⑦／瀬棚郷土館には吟子の遺品など縁の品が展示されている

## 離道そして晩年… His later years

瀬棚で暮らしていた志方は、しばらくすると同志社へ再入学するため東京へ向かいます。

それを機に吟子は札幌に転住し、婦人科・小児科を開業しますが、病気を患い療養のため、熊谷にある姉の実家に身を寄せるのでした。

同志社を卒業した志方は、北海道浦河教会の牧師となりますが、翌年には牧師を辞めて瀬棚へと戻ります。

療養していた吟子も3カ月遅れて瀬棚に戻り、再び2人の生活が始まります。しかし、間もなく1905（明治38）年、志方はその年の秋に肺炎でこの世を去ってしまうのです。志方の遺骨はインマヌエルに埋葬され、それから3年後の1908（明治41）年、孤独な身となった吟子は姉の勧めもあり、理想郷を夢見て訪れた北海道を離れるのでした。

晩年、吟子は東京の本所区新小梅町（現・墨田区向島）の閑静な場所に身を落つけ、病院を続けます。

そして、1913（大正2）年3月23日、荻野吟子は肋膜炎を発病して病床に伏せると、6月23日、努力と苦勞に満ちた62年の人生に幕を降ろすのでした。

せたな町では荻野吟子の輝かしい功績を後世に伝えるため、1967（昭和42）年、荻野医院開業跡地に頭彰碑を建立（その後、吟子小公園へ移設）。

1976（昭和51）年には、瀬棚郷土館において遺族より寄贈された吟子の貴重な遺品を展示、2001（平成13）年には吟子生誕150年を記念して、せたな町瀬棚総合支所前に「荻野吟子女子像」が妻沼町（現在の埼玉熊谷市）より寄贈されました。頭彰碑はその後、吟子の功績を称え旧国鉄瀬棚駅跡地に造成された「吟子小公園」へ移設されておりま。

理想郷を夢見てインマヌエルの丘（今金町）に立ち、熱い想いを胸にせたな町へとやってきた荻野吟子とその生涯を閉じて今年で100年…。その思想と情熱は今もこのせたな町に息づいています。

## 日本女医第1号「荻野吟子」女史 没100年記念事業

6月23日 せたな町民ふれあいプラザ  
入場無料 整理券を発行します

◎整理券取扱所／・せたな町教育委員会  
・大成教育事務所・瀬棚教育事務所

パネル展 11:00～16:00

講演会

14:00～15:00

ビデオ上映会 11:00～16:00  
「日本女医第1号荻野吟子の生涯」(40分)

講師：女優 三田佳子氏  
※三田佳子氏は平成10年舞台「命燃えて」東京新橋演舞場にて荻野吟子役を演じています

■主催／せたな町、せたな町教育委員会 ■問い合わせ先／せたな町教育委員会 TEL. 0137 (84) 5111



吟子豆知識◎埼玉県熊谷市の天文同好会の方が発見した小惑星に名前を付けるのに当たり、熊谷市が市町村合併後の新しい市に相応しい名前を募集したところ、多数の応募の中から「荻野吟子」が選ばれました。荻野吟子(小惑星)(10526 Ginkogino)小惑星番号10526番の小惑星。